

科目名称	臨床整復学実習
授業コード	BH231
英語名称	Clinical Reposition by Judo practice 1
学期	2024年度前期
単位	2.0
担当教員	行田 直人, 松本 宗三, 金島 裕樹
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	臨床現場において、上肢系の骨損傷等に遭遇した際に的確に対応するための問診、視診、触診などにより病態や合併症を判断する能力、整復、固定などの臨床的技量および予後を予測し予後を良好にするための処置や指導ができる能力の獲得を目的とする。また、適切な診察を行うため、この領域に必要な患者とのコミュニケーション能力の獲得を目的とする。
科目に関連する実務経験と授業への活用	臨床現場で様々な骨折等の状況を把握するために必要な問診から検査までの一連の流れを本学教員（行田、金島：柔道整復師）と非常勤講師（松本：接骨院院長、柔道整復師）が、これまでの実務経験を活かして教授する。
到達目標	カリキュラムポリシーに掲げる基礎柔道整復学・臨床柔道整復学で養った「柔道整復の専門知識を学び、論理的思考」をもとに、「柔道整復の技術を学び、実践力を養う」ために、下記の到達目標をあげる。また、本実習は臨床経験豊富な柔道整復師が行う。  1. 上肢系の骨損傷等について説明でき、診察法、応急処置または治療法、後療法などを適切に実施できる。 2. 知識をもとにした論理的思考能力により、患者の病態を的確に判断し適切な治療を行うことができる。 3. 患者と良好なコミュニケーションを実践できる。
計画・内容	行田、金島：柔道整復師 松本：非常勤講師（接骨院院長、柔道整復師） 1) 上肢帯の解剖学の理解・触診 1 担当教員：行田直人,金島裕樹,松本宗三 予習：上肢帯の骨と筋について 復習：上肢帯の神経について 2) 上肢帯の解剖学の理解・触診 2 担当教員：行田直人,金島裕樹,松本宗三 予習：上肢帯の骨、筋、神経について 復習：鎖骨骨折の症状について 3) 上肢帯の解剖学の理解・触診 3 担当教員：行田直人,金島裕樹,松本宗三 予習：上肢帯の骨、筋、神経について 復習：鎖骨骨折の症状について 4) 上肢帯の解剖学の理解・触診 4 担当教員：行田直人,金島裕樹,松本宗三 予習：上肢帯の骨、筋、神経について 復習：鎖骨骨折の症状について 5) 鎖骨骨折の整復法と固定法 その1 担当教員：行田直人,金島裕樹,松本宗三 予習：鎖骨骨折の整復手順について 復習：鎖骨骨折の固定法について 6) 鎖骨骨折の整復法と固定法 その2 担当教員：行田直人,金島裕樹,松本宗三 予習：鎖骨骨折の整復手順について 復習：鎖骨骨折の固定法について 7) まとめ 1（鎖骨骨折の診察法、整復法と固定法の確認） 担当教員：行田直人,金島裕樹,松本宗三 予習：鎖骨骨折の診察法について 復習：鎖骨骨折の整復法と固定法について 8) まとめ 2（鎖骨骨折の診察法、整復法と固定法の確認） 担当教員：行田直人,金島裕樹,松本宗三 予習：鎖骨骨折の診察法について 復習：鎖骨骨折の整復法と固定法について 9) まとめ 3（鎖骨骨折の診察法、整復法と固定法の確認） 担当教員：行田直人,金島裕樹,松本宗三 予習：鎖骨骨折の診察法について 復習：鎖骨骨折の整復法と固定法について 10) 上肢外傷に関する各種検査法 1 担当教員：行田直人,金島裕樹,松本宗三 予習：徒手検査について 復習：実習内容について

計画・内容	<p>11) 上肢外傷に関する各種検査法 2 担当教員：担当教員：行田直人,金島裕樹,松本宗三 予習：徒手検査について 復習：実習内容について</p> <p>12) 上腕骨外科頸骨折について 1 担当教員：担当教員：行田直人,金島裕樹,松本宗三 予習：上腕骨外科頸骨折の骨,筋,神経について 復習：上腕骨外科頸骨折の症状について</p> <p>13) 上腕骨外科頸骨折の整復前の確認事項 担当教員：担当教員：行田直人,金島裕樹,松本宗三 予習：上腕骨外科頸骨折の症状等について 復習：上腕骨外科頸骨折の合併症について</p> <p>14) 上腕骨外科頸骨折の整復法と固定法 担当教員：担当教員：行田直人,金島裕樹,松本宗三 予習：上腕骨外科頸骨折の合併症について 復習：上腕骨外科頸骨折の予後について</p> <p>15) 上腕骨外科頸骨折の整復法と固定法 その2 担当教員：行田直人,金島裕樹,松本宗三 予習：上腕骨外科頸骨折の整復手順について 復習：上腕骨外科頸骨折の固定法について</p> <p>16) 上腕骨外科頸骨折の整復法と固定法 その3 担当教員：担当教員：行田直人,金島裕樹,松本宗三 予習：上腕骨外科頸骨折の整復手順について 復習：上腕骨外科頸骨折の固定法について 担</p> <p>17) まとめ 1 (上腕骨外科頸骨折の診察法, 整復法と固定法の確認) 担当教員：行田直人,金島裕樹,松本宗三 予習：上腕骨外科頸骨折の診察法について 復習：上腕骨外科頸骨折の整復法と固定法について</p> <p>18) まとめ 2 (上腕骨外科頸骨折の診察法, 整復法と固定法の確認) 担当教員：行田直人,金島裕樹,松本宗三 予習：上腕骨外科頸骨折の診察法について 復習：上腕骨外科頸骨折の整復法と固定法について</p> <p>19) まとめ 3 (上腕骨外科頸骨折の診察法, 整復法と固定法の確認) 担当教員：行田直人,金島裕樹,松本宗三 予習：上腕骨外科頸骨折の診察法について 復習：上腕骨外科頸骨折の整復法と固定法について 担当教員：行田直人,金島裕樹,松本宗三 予習：上腕骨骨幹部周囲の筋と神経について 復習：上腕骨骨幹部骨折の特徴について</p> <p>21) 上腕骨骨幹部骨折の治療法 担当教員：行田直人,金島裕樹,松本宗三 予習：上腕骨骨幹部の症状について 復習：上腕骨骨幹部骨折の合併症, 予後について</p> <p>22) 上腕骨遠位端部骨折の総括的事項 担当教員：行田直人,金島裕樹,松本宗三 予習：上腕骨遠位端部の骨,筋,神経について 復習：上腕骨遠位端部骨折の特徴について</p> <p>23) 上腕骨顆上骨折の整復前の確認事項 担当教員：行田直人,金島裕樹,松本宗三 予習：上腕骨顆上骨折の症状について 復習：上腕骨顆上骨折の合併症について</p> <p>24) 上腕骨顆上骨折の整復法と固定法 その1 担当教員：担当教員：行田直人,金島裕樹,松本宗三 予習：上腕骨顆上骨折の合併症について 復習：上腕骨顆上骨折の予後について</p> <p>25) 上腕骨顆上骨折の整復法と固定法 その2 担当教員：行田直人,金島裕樹,松本宗三 予習：上腕骨顆上骨折の整復手順について 復習：上腕骨顆上骨折の固定法について</p> <p>26) 上腕骨顆上骨折の整復法と固定法 その3 担当教員：行田直人,金島裕樹,松本宗三 予習：上腕骨顆上骨折の整復手順について 復習：上腕骨顆上骨折の固定法について</p> <p>27) まとめ 1 (上肢系の解剖の理解, 触診) 担当教員：行田直人,金島裕樹,松本宗三 予習：上腕骨顆上骨折の診察法について 復習：上腕骨顆上骨折の整復法と固定法について</p> <p>28) まとめ 2 (上肢系の各種検査法の確認) 担当教員：行田直人,金島裕樹,松本宗三 予習：上腕骨顆上骨折の診察法について 復習：上腕骨顆上骨折の整復法と固定法について</p> <p>29) まとめ 3 (上腕骨骨折の診察法, 整復法と固定法の確認 1) 担当教員：行田直人,金島裕樹,松本宗三 予習：上腕骨顆上骨折の診察法について 担当教員：行田直人,金島裕樹,松本宗三</p> <p>30) まとめ 4 (上腕骨骨折の診察法, 整復法と固定法の確認 2) 担当教員：行田直人,金島裕樹,松本宗三 予習：上腕骨顆上骨折の診察法について 復習：上腕骨顆上骨折の整復法と固定法について</p>
授業の進め方	<p>講義は1~30回で,各回90分である。各回において,原則として次のように授業を進める。まず,学習する疾患について教員による診察法,整復法,固定法等について解説する。次に,グループ分けをして先生役や患者役となり,実際の臨床をシミュレーションして問診,視診,触診などの診察や整復,固定実技の習熟度と患者とのコミュニケーション能力向上を図る。</p>
能動的な学びの実施	<p>理解を深めるため必要に応じて実習(ロールプレイングなど)を行う。</p>
授業時間外の学修	<p>予習・復習は,各授業毎に習った内容について合計60時間以上行うこと。 なお,予習・復習内容は,計画・内容記載を基に以下の通りとする。 予習：実習期間中に担当教員からの指示に従うこと。 復習：実習中に学んだ内容をレポートし,自身の考えを述べるができるようにすること。</p>
教科書・参考書	<p>教科書：「柔道整復学・理論編」・「柔道整復学・実技偏」(南江堂)</p>

成績評価方法と基準	<p>実習内容（柔道整復学理論編・実技編に準ずる）に関する実技試験の成績（70%）、授業内レポートもしくは小テスト（30%）を総合的に評価する。</p> <p>定期試験に関しては、教授した範囲に関する客観式試験（難易度および出題形式は柔道整復師国家試験に準ずる）とする。</p> <p>オンライン学習においては、オンライン講義に関する課題レポート評価(50%)、オンラインでの定期試験（50%）とする。</p>
課題等に対するフィードバック	<p>実習中やテストにおいて問題点などがあった場合には個別に面談を行い指導する。</p>
オフィスアワー	<p>Canous Squareを参照すること</p>
留意事項	<p>進行の度合いにより内容が変更されることもある。その際は事前連絡する。授業内だけの技術向上は難しいため、個人またはグループでの練習を重ねて技術向上を目指す必要がある。これまで学んだ柔道整復学や解剖学の知識が必要です。</p>
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	<p>zoomによるオンライン授業（事前に資料を掲示）と課題学習（講義終了後に課題を課す）を組み合わせで実施する。</p> <p>課題レポート内容評価20%、campus square上でのオンライン定期試験（80%）により評価する。</p>